

が不安定というだけでなく、人間的な発達が阻害されている一面もあり、時には問題をおこす。農業への展望のなさや、円高不況が子どもたちと与えている影響を親を通し、しっかりとつかむ必要がある。農業に誇りを持ち、専業でがんばるOさん、ナス作りのプロと自慢するPさん、

### 〔表紙絵について〕

#### ハエとり器

わが家は以前、家畜をかっていたので、夏ともなると、ハエが家中をわがもの顔で飛びかっていた。これは、私が生かす頃家で使っていた「ハエとり器」である。ガラス製で、中に米のとぎ汁を入れ、お膳の上にあけておく。すると、ハエはその臭いに引かれて入り込み、米のとぎ汁に突入する。これが最期で、もがいてもはいあがれない。ハエは、あえなく溺死するというしだ

お二人の子どもたちはしつかりと「自立」している。

親どうしの結びつき、地域での人間らしい結びつきはどうであろうか。前述の無視する会の中心だったし君の母親に卒直に話をしたところ、母親は「先生、私の子は今までずっとK君にいじめられていたんでいである。

あれ？ お膳の真中にご飯をおいてきな粉などをかけておいた記憶もあるのだが……。もしかしたら、ハエはご飯めがけてはいり込んできて、口をつける。「もうたくさん」と飛び立ったとき、ハエはガラスの器の中に飛び込んでしまふのだったろうか？ そして米のとぎ汁に着水して溺死。

記憶が定かでないが、よく工夫したものだ。子どもの頃、感心しながらそれを眺めていた。まもなくハエどもの活躍する夏がくる。

(大平壮一 中越高校)

すよ。そのことはもう終わったことじゃないですか。」と言った。親どうし、仲よくならなければいけないのに、年々親どうしの結びつきが弱くなっていくように思える。

三年生のQさんは、他県から移住してきた。近所の家にかつてに上がりこむ、時には火いたずらをする、というような問題をおこしたが、周りの人たちは見て見ぬふりをするところが多い。何か言うとトラブルが起るということだが、ハレ物にさわるようにQさんと接するような感じもあり、自分の子どもがQさんと遊んでいると、すぐ家につれもどすということもある。

親と地域をバラバラにし、追い込むもの——何かがそうしているように思うのは私だけだろうか。

以下次号

(やまざき とおる 西蒲原郡分水北小  
学校)